

新型コロナウイルス感染症等に伴いやむを得ず登校できない生徒への「学びの保障」の実践 ～ウェブ会議アプリを活用して普通教室で行う、全授業をリアルタイムで配信する取組～ 夕張市立夕張中学校 学級数6 (校長 広島 孝)

I 実践テーマの趣旨

本校では、一昨年度から続く新型コロナウイルス感染症が中学校区で拡大した際に、生徒が学習活動を継続できる教育環境と組織体制を構築することが喫緊の課題となった。そのため、今年度より、計画的に教育環境の整備と教員研修を実施し、新型コロナウイルス感染症等に伴いやむを得ず登校できない生徒の学びを保障するために、ウェブ会議アプリを活用し、8月から普通教室で行う全ての授業をオンラインで配信する取組を家庭や夕張市教育委員会と連携して進めた。

II 実践の概要

1 配信するサービスの選定

すべての教員が簡単に授業を配信したり、中学校第1学年の生徒及び保護者が簡単に接続し授業を視聴したりできるようにする必要があったことから、本校に整備されているICT端末にインストールされているウェブ会議アプリを活用することとした。

アカウントについては、今年度は、年度途中であることから、夕張市教育委員会と協議し、有償アカウントは取得せず、無償アカウントにより、オンラインで授業配信することとした。

2 教員研修の実施

6月の市教育振興会部会研修では、これまでにウェブ会議アプリでの会議等に参加した経験のある教職員が本校に数名いたことから、同僚性を活かして接続方法を相互に学び合い、ウェブ会議アプリでの会議を経験する機会を設定した。

7月の校内研修では、初任段階教員が講師となり、受信側で黒板の文字が読み取れるようにする工夫や、教室にいる生徒の学習を妨げないICT端末の位置等、授業を実際に配信する際の留意点について実技研修を行った。

3 普通教室で行う全授業のオンライン配信

校内生徒指導委員会が中心となり、7月に試験的に行った授業配信の成果と課題を踏まえ、8月から新型コロナウイルス感染症対策に関わって、やむを得ず登校することができない生徒の学びの保障に向けて、普通教室で行うすべての授業を、ウェブ会議アプリを活用してオンライン配信を行っている。

教室で映像等を視聴する場合には、テレビ画面が映るようにICT端末のカメラを向けるとともに、グループで協議する際には、グループにICT端末を渡し、欠席している生徒も協議に参加し意見反映できるよう工夫している。

また、受信側のマイクはオフにしているが、質問がある場合は、マイクをオンにして授業に参加できるようにした。



【教職員を対象とした実技研修の様子】



【教室後方に設置したiPadで授業を配信している様子】



【欠席した生徒がグループ交流に参加している様子】

III 成果と課題

- やむを得ず登校できない生徒も、授業に参加できるため、欠席した日の学習内容や学級の様子を知ることができ、学習の遅れに対する不安や級友との人間関係に関する不安の解消につながった。
- 無償アカウントで複数接続した場合は40分で切断されるため、1単位時間の中で再度接続する必要があることから、有償アカウントの取得や、40分単位での配信の工夫を図る必要がある。
- 学習プリントを使用する場合は、クラウドサービスを活用して生徒に配付するなど、生徒の学びの環境づくりにより一層配慮していく必要がある。